

1. 著者紹介（いるのかな、この欄）

東野圭吾

『放課後』で江戸川乱歩賞を受賞しデビュー。

加賀恭一郎シリーズ、ガリレオシリーズ、笑う小説シリーズなど、多くの作品を執筆しており、『秘密』で日本推理作家協会賞を受賞している。

また、『容疑者Xの献身』で直木賞を受賞。また、その他多数の文学賞を受賞している。

日本推理作家協会では、2009～2013年に理事を務め、文学賞の選考委員としても活動している。

作品の特徴としては、真っ当な本格ミステリから、理系的な知識を生かしたミステリなど様々。『容疑者Xの献身』では、二階堂黎人が呈した本格論争が起きるなどしている。

2. 例会本について

真面目に書くのが非常に辛い。

超税金対策殺人事件は、世にも奇妙な物語で映像化されている。

以上。予備知識。

3. 各短編について

「超税金対策殺人事件」

ここまで馬鹿らしいと愛らしいと思うのは担当者だけだろうか？

「超理系殺人事件」

あなたは読み飛ばさずに、最後まで内容を理解して読了しましたか？

「超犯人当て殺人事件」「超高齢化社会殺人事件」

それはいいのか……うん、でも面白いよね、その発想、という点で担当者の好み

「超予告殺人事件」

この短編の中では真っ当な方じゃないだろうか？ 真っ当とは何か、少しぶれてくる

「超長編小説殺人事件」「魔風館殺人事件（超最終回・ラスト五枚）」

「超読書機械殺人事件」

この三本あつての『超・殺人事件』だと担当者は思っております

4. まとめ

（この欄もいるかな……？）